

学校視察報告

京都府立京都すばる高等学校

視察日：令和7年10月28日（火）

視察者：有賀詩織、浅見大輔



学科構成と特徴



企業創造科

簿記会計や地域連携が学びの核
学校設定科目「企業マネジメント」で、コミュニケーション力
や組織運営能力を育成。



企画科

マーケティングやグローバルな
学びが核。
学校設定科目「グローバルビジ
ネス」を実施し、企画力・発信
力を育成。



情報科学科

情報セキュリティやプログラミ
ングに特化
多くの授業を複数教員（TT）
で実施し、手厚い指導体制を構
築。

※R7年度入学生より教育課程を見直し、単位数削減や学科横断ゼミなどを導入予定。

進路・求人状況

求人倍率

20倍

高い企業需要と進学実績

- （1）求人数は1,500件
- （2）特に大手企業や地元企業からのIT人材需要が高いのが特徴
- （3）高卒でも4年後には大卒同等の待遇(給与、総合職転換など)が得られるケースもあり
- （4）進路については約7割が進学を選択しており、その多くは推薦入試を活用しています。

企業連携：商品開発

京都府 × 湖池屋 プロジェクト

ポテトチップス「しば漬けタルタル味」を
共同開発し、全国のコンビニ・スーパーで
100万袋を販売。

- ・ 特別性の創出: 継続販売ではなく、単発企画にすることで商品価値を向上。
- ・ 段階的な学び: 2年次「起業マネジメント」で企画
3年次「課題研究」で販促を実施。
- ・ 成果: 社長へのプレゼンを経て3案から採用。
パッケージデザインも生徒が考案。



授業見学①：企画科

2年 グローバルビジネス

テーマ：マイクロファイナンス（少額の無担保融資）

- ✓ 活動内容:
動画視聴をもとにしたプレゼンテーション演習。
- ✓ 評価観点:
「見やすさ」「姿勢」「独創性」。面接対策も兼ねる
- ✓ 特筆事項:
他者の発表を静かに聞く姿勢が徹底されている。
競争的プレゼンを通して「飽きさせない工夫」を学ぶ。



授業見学②：起業創造科

3年 起業マネジメント

体制

チームティーチングで実施
コミュニケーション分野とマネジメント
分野を半数ずつの生徒が交代で学ぶ

言語活動の重視

1分間スピーチや質問練習を反復
「1 ➡ 100」ではなく「0 ➡ 1」を
生み出す人材育成を目指す

生徒の様子・成果

生徒が自ら挙手し、ハキハキと説明できる主体性がある

挨拶は「礼、お願いします」と面接のように丁寧。

時事トピックスの提出や企業講話（湖池屋社長等）を通じ、ビジネス視点を養っている。

授業見学③：情報科学科

2年 情報セキュリティ

内容：Accessを使用したSQLの実習テスト

与えられた条件を実行するSQL文を記述し、データベースを完成させる実践的な内容。

比較演算子やステートメントの理解度を確認。

👥 手厚い指導体制

4人体制（TT）で授業を実施。

法分野を社会科教員が担当するなど、専門性と指導力を高める工夫が見られる。

課題研究（ラボ）では生徒が自らテーマを設定（例：フィッシング詐欺対策研究）主体的に取り組んでいる。

課題研究（ゼミ活動）の事例

🚩 Aゼミ（湖池屋PJ）

販売促進のための広報活動

Instagram、YouTube でショートドラマやマーケティング動画の制作。

👕 Uゼミ（高大連携）

京都文教大学と連携し、「親の古着×自分の服」のファッションショーを開催。古着に新しい価値を付与。

🚐 Eゼミ（アントレ）

キッチンカー6店舗の運営や持続可能なビジネスモデルの研究。
大学のアントレプレナーシップ学環へ進学する生徒も。

🚌 旅行企画

高齢者向けバス旅行プラン。移動中のレク（クイズ、思い出の曲）まで含めた「おもてなし」を企画。

農業 工業 商業

学校視察 報告書

山形県立村山産業高等学校

視察日：令和 7 年11月13日（木）

視察者：浅見大輔、一之瀬大介



視察目的と学校概要

視察目的

- ✓ 地域連携コンソーシアムの先進的取組の調査
- ✓ 農・工・商3学科連携の事例と課題収集（再編を見据えて）
- ✓ 施設整備・教育環境の改善点の発見

学校概要

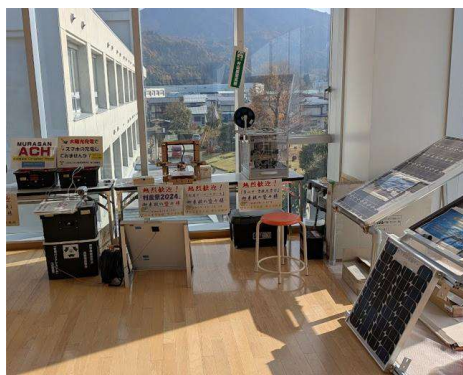
構成：農業（2）工業（2）商業（1）の5クラス

背景：2014年再編開校

旧農業高校の敷地に工業が移転し商業を新設

特徴：「社会に開かれた教育課程」推進校
長野県と気候・立地（盆地、駅から遠い）や課題（少子化、普通科志向）が共通

地域連携コンソーシアムの仕組み



推進体制の要

- ✓ 担当部署：分掌「教育企画情報部」がハブとなり、全学科を伴走支援。
- ✓ 外部人材：約20名の産業界委員が参画
会議だけでなく「授業」に継続的に入る実質的な連携
- ✓ マイスターハイスクール事業：県版フューチャプロジェクト（3年計画）
各学科の課題研究+αの取組を支援。

学科間連携：カリキュラムとプロジェクト

総合選択制（2・3年次）

学科の枠を超えて選択可能（例：農業・工業生徒が簿記を学ぶ）
生徒間の交流と相互理解を促進。

3学科連携「花ひかり」日本酒プロジェクト



探究的な学びのステップ

1年次（共通）	産業理解とキャリア基礎 全学科共通の内容。産業界から講師を招き、農工商相互の作業やSDGsを理解する。 中学校の振り返りも含め、探究の基礎を固める。
2年次（専門）	学科ごとの探究 各専門分野に基づいた探究活動を実施 総合選択科目での他学科科目履修も並行
3年次（発展）	課題研究（3～4単位） うち2時間は学年同日時に設定し、学科横断的な活動や企業連携をしやすく工夫。 学習成果発表会は全校実施で、産業界も招聘。

各学科の特色ある取組



商業科

地域のデザイン係: 各学科から依頼を受け、パッケージやポスターを制作。
サテライトオフィス
「Sun+nane」でイベントや販売を実施。



農業科

技術の活用依頼: 工業科へ鳥獣被害防止装置や単管パイプ設置を依頼。
商業科へレジ袋デザインを依頼するなど、連携の発注元。



工業科

モノづくり支援: レーザー加工機や3Dプリンタ等の最新設備を活用し、他学科のニーズを具現化。
ソーラーパネルで農業支援も。

再編・統合に関する重要な知見

施設・設備の課題

- ✓ 更新予算の確保: 10年後の機器更新（PC、プロジェクター等）を見据え、リース契約の検討を推奨。
- ✓ 設計の細部: 掃除・防災観点で壁面はフラットに。
プロジェクターは交換容易な設置に
- ✓ インフラ整備: 特に農業科は水道・電源の位置が重要。設計段階で綿密な検討が必要。

人間関係と融和

- ✓ 「時間」が解決: 当初は生徒間・職員間の軋轢もあったが、連携授業や活動により相互理解が進み、現在は「ワンチーム」の意識。
- ✓ 食い合い防止: 進路先などで学科間の競争を避ける配慮。
- ✓ 他校の失敗に学ぶ: 「同じ失敗はしない」という強い意識で運営。

施設ゾーニングの工夫

実習棟の配置:

南側 1-3F 工業科エリア

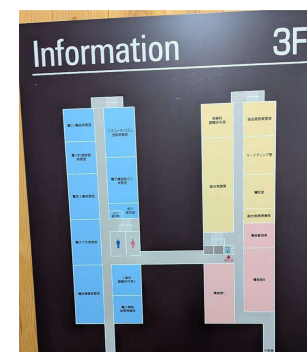
実習用機材を豊富に用意

北側 1-2F 農業科エリア

実習に出やすい動線確保（更衣室・泥落とし等）

北側 3F 商業科エリア

ワンフロアでグループワーク等がしやすい環境



2Fには図書館やイベントができるオープンスペースも用意

I 岩手県立黒沢尻工業高等学校

1 訪問期日

令和7年7月14日(月)・15日(火)

2 設置学科

本 科 機械科・電気科・電子科・電子機械科・土木科・材料技術科

専攻科 工業技術科(機械コース・電気コース) 定員 12 名



3 専攻科設置までの経緯

(1) 地域企業からの要望，およびいわて産業人材育成会議からの提言(平成 17 年)

- ① 北上市は岩手県のものづくり中心都市であり，岩手県としても重点的に力を入れている地域である。
- ② 地元工業高校への期待は大きい，生徒の資質や能力が育っていない。
- ③ 生徒の県外流出が顕著である。
- ④ 『工業高校や産業技術短期大学校，高専，大学，産業支援機関などにおける教育・訓練内容が産業界のニーズを踏まえたより実践的なものになるように』
- ⑤ 提言書に黒沢尻工業高校と産業技術短期大学校に専攻科の設置を提示

(2) 専攻科課程の設置準備対応

- ① ものづくり実践とキャリア教育を学びの柱とし，ものづくり産業を支える人材育成を目的とした北上川流域を中心とした企業・学校・行政の連携による，「北上川流域ものづくりネットワーク」を設置。
- ② 現在 150 社ほどの企業と学校を中心に 224 団体が加盟。

4 専攻科の開校(平成 19 年4月)

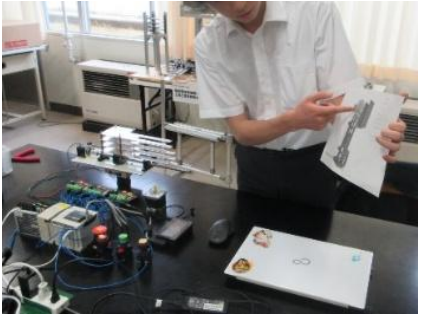


- (1) 黒沢尻工業高等学校の旧工業化学科教室を流用(スピード感ある開校を実現)。
- (2) 本科生と同じ施設内での学びのため，チャイムも自作(本科は 50 分，専攻科は 90 分)。
- (3) 教員は 5 名(機械コース 2 名と電気コース 2 名)。
- (4) 専攻科教員は一般教員と同様の扱いであるため，黒沢尻工業高校に赴任した工業科教員の中から 2 級技能士以上などの能力を持つ者が専攻科を担当(専任)。
- (5) 学校敷地内に寮があり，全国から募集している。入学生に関する条件は出身地域に関わらず機械設計と電気回路を高校時代に履修していることである。
- (6) 施設設備の関係で，学科は工業技術科定員を 12 名としているが，各コース(機械・電気)の上限は 10 名。
- (7) 大学編入が可能であるが，設置経緯を踏まえてこれまで編入実績はない。
- (8) 専攻科生の登下校はスーツにネクタイ，実習時は作業服。

5 専攻科の取り組み

(1) キャリア教育

1年 前期 4月～8月	<p>地域産業講座 90 分×2コマ → 地域産業の理解を目的とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北上川流域ものづくりネットワーク参加企業経営者(約 25 社)による講演 ・ 毎年最後は北上市長が講演している ・ 北上川流域ものづくりネットワークに前年度の2月頃から依頼を行うが、企業の人材不足の影響か、講演を希望する企業が非常に多い
1年 後期 9月～1月	<p>職業社会論 90 分×1コマ → 自身が就職することを想定した企業訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前期の講演を元に、1人5社ほど就職候補企業を挙げて各自が訪問交渉 ・ 複数企業の企業訪問を行い、最終的に1社に絞る。
1年 後期 2月中旬	<p>企業実習 2月中旬の2週間 → 応募することを前提とした研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絞った1社に出向いて研修を行う。 ・ 企業側も応募してくれることを認識しているので、そのつもりでの指導が行われている。

(2) ものづくり実践教育

1年時	<p>グループ研究(コース混在で2～3人) → 専攻科にはない部活動の代わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次の修了研究で必要とされるものづくりの基礎や製作までの一連の流れの習得を目的とし、自分たちで制御システム製作を行う。 ・ 予算は5万円。企業連携せず、グループメンバーで相談しながら完成を目指す。 	
2年 前期	<p>総合実習 1人1テーマとして自由に課題を設定して取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ研究の経験を元に計画・設計・材料手配・製作・まとめといったものづくりの流れをマスターすることが目的。 ・ 多くの学生は、就職を希望している企業の業務内容に沿ったテーマを設定し、修了研究と連携できるようにしている。 ・ 4月早々に内定が決まった学生は、先行して修了研究をスタートする。 	
2年 後期	<p>修了研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内定先企業の技術担当者と相談して企業の業務内容に沿った研究を1人1テーマで実施。 ・ 予算は11万円。 ・ 経過報告も含めて発表会を複数回実施し、きちんと練習を積ませた上で1月末に企業(講評をいただく)と家族(支援に対する御礼を言う場)に公開する発表会を実施。 ・ 6割程度の完成度での発表もあるが、失敗も経験させる場として最後まで実施させている。 	 

(3) 5 S活動・QC活動

- ・ものづくり産業人を育成する場として、5 S活動に力を入れている。
- ・地元の大学や産業技術短期大学校では清掃業者が入っているが、黒沢尻工業高校専攻科では産業人材育成の機会として学生自治として自分たちで清掃活動や美化活動を行っている。

(4) 産学連携(主なもの)

① 一関高専教授による授業(1・2年生全員で受講)

- ・メカトロニクス工学と環境工学を隔年実施。
- ・前期のみの実施で15回行われる。
- ・訪問時にはメカトロニクス工学の講義が行われていた。



② からくり制御技術講習会(1年生全員が受講)

- ・(株)デンソー岩手に学生が出向いて講習を受ける。
- ・ものづくりの考え方や機構の基礎技術をしっかりと学べるため、その後のグループ研究や総合実習、修了研究に生かされている。



③ 機械コース・電気コースに沿った地元企業の技術講習会

- ・地元中小企業に依頼して技術講習会を受講。
- ・今年度は機械コースがNC旋盤基礎技術、電気コースがD Xに関する講習を受講予定
- ・専攻科設置の目的の一つが地元中小企業への人材供給であったため、基本的に技術講習会は地元の中小企業に依頼するようにしている。

(5) 資格取得対応

① 各種の2級技能検定や電気主任技術者試験など、高校在籍中の3年間で取得できなかった資格に自ら挑戦する学生が多い。

② 電気コースでは入学前の1月頃から電気主任技術者試験の学習会を専攻科の教室でスタートし、入学後スムーズに専門の学習に入っている。

③ 旋盤作業は専攻科実習室が技能検定会場となっていることもあり、地元の工業高校生を含め放課後や休日に先生とともに練習に来る学生が多い。



④ 専攻科職員をはじめとして、県内の該当学科職員には技能検定2級以上の取得を推奨している。

6 黒沢尻工業高等学校 専攻科の視察を通して

(1) 北上川流域ものづくりネットワークのような、広範囲に及ぶ地元産業界と行政機関との連携ネットワークの構築、並びにその運用方法が参考になった。

(2) 安曇野地域の産業発展に寄与できる新校本科の学科、および専攻科新設の際に設置する学科の具体的な検討が必要であると感じた。

(3) 専攻科が新設できた際には、設置学科の検討や2年間の学びの検討とともに、地域の課題解決に向けた探究活動ができる産業人としての態度や心などを育てる環境作りと、地元企業へのインターンシップやデュアルシステムなどの導入・実施などの検討も必要と感じた。

Ⅱ 山梨県立甲府工業高等学校 専攻科

1 訪問期日

令和7年8月25日(月)

2 設置学科

本科 全日制：機械科・電気科・電子科・建築科・土木科

定時制：機械科・電気科・建築科

専攻科 全日制：創造工学科(機械系コース・電子系コース) 定員 20 名

定時制 建築科



3 専攻科設置までの経緯

(1) 専攻科設立の背景

- ① 山梨県には高等専門学校がなく、県内企業から人材確保の困難さが指摘されていた。
- ② 県立高等専門学校の設置検討を行ったが費用対効果の面から現実的ではないと判断され、産業人材育成委員会の議論を経て、教育委員会主導のもと甲府工業高等学校に「専攻科」を設置することとなった。
- ③ 専攻科の校舎は甲府工業高等学校敷地内に新設。
- ④ マシンニングセンターや炭酸ガスレーザー加工機など、企業現場と同等の最新設備と機器を導入し、創造研究や実習に活用。

(2) 専攻科の構成と定員

- ① 県内企業のニーズに基づき、創造工学科を設置し、機械系コースと電子系コースを学ぶ。
- ② 施設面や他県の事例を踏まえて専攻科の定員は20名。
- ③ 教員は11名(機械系7名、電子系4名)。教員は専任で、技能検定を受けるなど技術向上に日々努めている。
- ④ 卒業生は全員が県内企業に就職し、地域定着を目的とした教育の成果が表れている。

4 専攻科について

(1) 教育理念と方針

- ① スクールミッションとして、「山梨県の基幹産業である機械・電子産業の持続的な発展を支え、即戦力となる人材を育成する」を掲げ、出願資格には「山梨県内の機械・電子系関連企業への就職を強く希望する」ことを明記している。
- ② 技術教育の目的は「ものづくりが好き」という気持ちを育てること。
- ③ 学生には自ら考え、形にする力や課題解決力を身につけさせる。

(2) 教育課程

- ① 数学・英語・理科などの基礎科目を含めた教育課程を編成し、授業は90分単位で週18時間程を確保している。
- ② 大学編入も可能であるが、専攻科では進学指導は行っていない。
- ③ 専攻科は本科とは異なる独立した教育体制を持ち、実習環境も整備されている。

(3) 企業連携と企業実習

- ① 地元企業（協力企業は80社ほど）との連携により、学生は希望する企業で実習を行う。
- ② 企業には実習計画書の提出を求め、学生が内容を確認できるようにしている。
- ③ 企業実習は内容や期間が企業ごとに異なり、学生の希望に応じて選択可能。

(4) 進路指導

- ① 地元就職を推奨し、進学指導は行っていない。
- ② 企業側には、高専・短大と同等の給与体系を構築してもらっており、本科生徒とは求人票の記載内容が異なる。
- ③ 就職できなかった学生はいないが、企業側にも魅力ある職場づくりを求めている。

5 専攻科の取り組み

(1) 機電融合教育の実施

企業で設計に携わることができる学生を育成することを目的に、創造工学科生(機械系コース・電子系コース)全員がシーケンス制御作業と旋盤・フライスの技能検定2級以上合格を目指す。

(2) デュアルシステム(企業ガイダンス・企業実習)と創造研究

専攻科と企業の施設設備を活用した「ものづくりの場」、企業ガイダンスや企業実習、発表会とおした「発表の場」と「質問の場」といった学ぶ環境を提供する

1年 前期	企業ガイダンス「地元企業を知る」 <ul style="list-style-type: none">・ 地元どんな企業があるかを知ることと、自分たちがどれだけ期待されているかを実感することが目的・ 3日間で企業実習受け入れを希望する企業すべての企業説明を聞く・ 企業を調べて興味を持った企業5社を選ぶ
1年 後期	企業実習 <ul style="list-style-type: none">・ 3日間ずつ5社で実習・ 5社の中から就職応募先を決める(ミスマッチを防ぐことができる)
2年時	創造研究「企業の全面協力が必要」 <ul style="list-style-type: none">・ 内定先が決まった学生から企業と相談しながら研究活動を行う・ 週1日(指定曜日)は登校して担当教諭と情報共有を行い、それ以外は基本的に企業で研究活動(学校で行う者もいる)・ 7月下旬に中間発表会、2月下旬に成果発表会を実施

6 甲府工業高等学校 専攻科の視察を通して

- (1) 専攻科の校舎を新設し、地元企業で使われている施設設備と最新工作機械を導入して実習などで活用することは、学生にとって大きな魅力であるように感じた。
- (2) 専攻科が目指すところを明確にしていることで、デュアルシステムや創造研究など、地元企業の全面的な協力も得られやすいと感じた。
- (3) 専攻科設置については検討中であるが、実現されるのであればそれぞれの学科が目指すところを明確にして校舎を新設し、地元企業の協力を得ながらそのニーズに沿った施設設備の導入と企業の方々からの技術指導がいただければと思う。

第9回再編実施計画懇話会資料

安曇野総合技術新校(仮称)への 学びの継承



南農公式マスコットキャラクター
「ナンヤギくん」

南安曇農業高等学校

令和7年12月18日(木)
豊科交流学习センターきぼう

1

本校で取り組む地域との連携

安曇野オリジナル商品開発プロジェクト フードコース3年

「ワサビ生大福」(株) 綿半三原商店

「トマトの洋風おこわ」(株) 辰巳

「米粉のロールケーキ」 まちの駅 安曇野ベース など

活性汚泥の農業利用に関する連携

微生物活用コース

2

安曇野オリジナル 商品開発プロジェクト 令和2年度より

スタート



3

卒業研究として1人1品考案



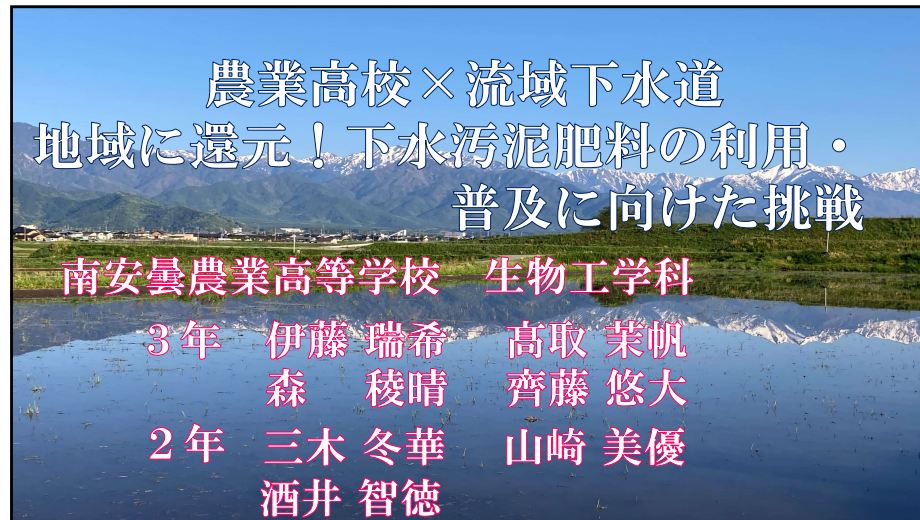
4



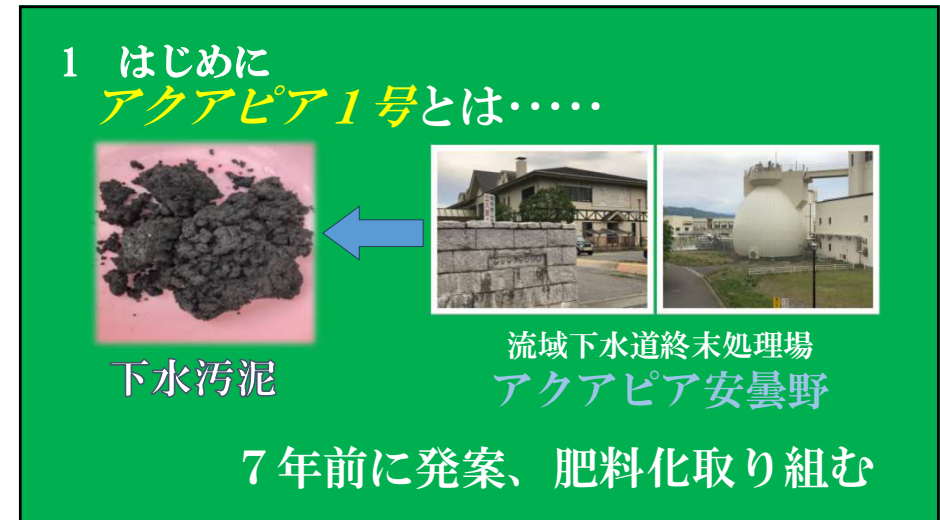
5



6



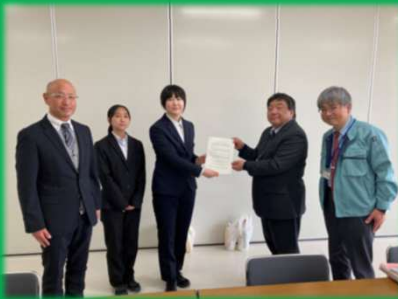
7



8

1 はじめに

**令和5年度から
アクアピア安曇野と協定締結**



実用化に向け
協働で取り組む

9

3 これまでに取り組んだ汚泥施用試験

令和5年度から **‘風さやか’ 水田での試験**



各試験区 1 アールずつ用意



分げつ数

10

4 登録しても汚泥は肥料として利用できない？



産業廃棄物

肥料登録はできた
けれど・・・



田畑に施すことはできない

11

令和7年 国土交通省「循環のみち下水道賞」受賞

【地元高校生×流域下水道】

地域に還元！下水汚泥肥料の利用・普及に向けた挑戦



12

様々な地域との連携



13



14



15



16

令和7年度 収穫祭



17

令和7年度 収穫祭

長野県南安曇農業高等学校 2025
11/14(金)
9:30~12:00

**収穫祭
・記念講演**

会場
安曇野市豊科公民館 大ホール 9:00開場
(安曇野市豊科4289-1)
自家消費での残しの際は、指定の駐車場をご利用ください。

記念講演
自然と生命の恵みに感謝し、農業と教育の未来を一緒に考えよう。
講師 中村 桂子 氏
(J1生命科学研究館名誉館長)
略歴 東京大学理学部化学科卒業
同大学院生物化学専攻 理学博士
自給農業実践の必要経路(会員一人)
演題 「農業こそ教育の原点」

タイムテーブル

開会式	9:30
収穫祭式典	9:30~10:10
生徒学習発表	10:15~10:35
記念講演	10:45~11:45
閉会式	11:50

申込はこちらから
11/14(金)12時まで

QRコード
入場無料

(問い合わせ先)
長野県南安曇農業高等学校 ☎0263-72-2139 FAX0263-71-1150



中村桂子先生
講演会

18

令和7年度 収穫祭



開会式



代表生徒による意見発表



賞状授与



代表生徒による研究発表

19

安曇野総合技術新校(仮称)への 学びの継承 まとめ

- 地域連携活動
- 課題研究 (卒業論文) 一人一研究
- 農業クラブ活動全般
校内発表会、検定、
農業鑑定競技、収穫祭等



20

南安曇農業高等学校 地域連携活動の状況

- ・安曇養護学校あづみの分教室との連携
 - ① 藍の栽培協力・生徒交流
 - ② フルーツ交流 フルーツコース
ブドウ管理・収穫、リンゴの収穫
- ・安曇野オリジナル商品開発プロジェクト フードコース3年
「ワサビ生大福」(株) 綿半三原商店 「トマトの洋風おこわ」(株) 辰巳
「米粉のロールケーキ」 まちの駅 安曇野ベース など
- ・南農×辰巳×長野県Aコープ 安曇野オリジナル商品の発売
「信州安曇野南農カステラ(信州産リンゴ)」 「信州安曇野南農カステラ(和梨)」 等
- ・活性汚泥の農業利用に関する連携 微生物活用コース
 - ① 犀川安曇野下水道事務所(アクアピア安曇野)と協働した下水汚泥肥料化に向けた取り組み
 - ③ ゴールドパック(株)にて販売されている汚泥肥料の施用試験
 - ③ エアーウォーター(株)のメタン発酵植物残渣肥料の施用試験
- ・ワサビ研究への材料支援(生物部、生物工学科の活動に対して支援)
- ・黒沢洞合自然公園整備事業への協力(課題研究にて実施 環境デザインコース)
- ・市役所ホールへアレンジメント作品の展示(年5~6回)(フラワーアレンジメント部)
- ・建設関係への就労促進支援事業(安曇野建設事務所・長野県建設業協会安曇野支部・長野県測量設計業協会)・鉄筋結束型枠講習会 設計、施工コース
- ・建設機械運転実務研修 設計、施工コース
- ・測量講習会環境クリエイト科
- ・U字溝講習会 設計、施工コース
- ・モノづくりマイスター 環境コース
 - ①石積み講習会 ②根巻講習会 ③樹木剪定講習会
- ・モノづくりマイスター フラワーコース
- ・安曇野警察署との特殊サギ防止活動 フルーツコース
 - ①デザインリンゴづくり ②デザインリンゴ収穫 ③デザインリンゴ配布
- ・長野銀行 花壇作り フラワーコース
- ・豊科交番 花壇作り フラワーコース
- ・JR 豊科駅前花壇作り フラワーコース
- ・花市の実施 フラワーコース2・3年、グリーンサイエンス科1年
- ・地域寄せ植え講座 アルプス地区、寺所地区、成相地区 フラワーコース
- ・常念フェスタ ふれあい動物園 動物活用コース
- ・安曇野環境フェア2024 微生物活用コース
- ・ドッグトレーニング 動物活用コース
- ・豊科認定こども園との交流 生物工学科 植物活用コース
- ・エームサービス(株)への農産物提供 1年農業と環境
(株)デンソーエアークル、ポテテリカの社食として使用
- ・長野朝日放送 農業高校生青春チャレンジ
ヒマワリ迷路の制作とヒマワリ油づくり 環境クリエイト科 設計・施工テクニカルコース
- ・堀金小学校とのリンゴ交流 フルーツコース
- ・豊科東小学校 総合的な学習の時間における交流活動